

死亡者ノ原籍地

大正十四年

七二

府 縣 別	有業者		無業者(被扶養者ヲ含ム)		合 計	
	男	女	男	女	男	女
東京府	5,615	4,814	1,288	1,555	2,833	2,833
東京市	5,615	4,814	1,288	1,555	2,833	2,833
特定區域内	5,615	4,814	1,288	1,555	2,833	2,833
特定區域外	5,615	4,814	1,288	1,555	2,833	2,833
府 計	5,615	4,814	1,288	1,555	2,833	2,833
京都府	3,615	2,814	1,288	1,555	2,833	2,833
大阪府	3,615	2,814	1,288	1,555	2,833	2,833
神奈川府	3,615	2,814	1,288	1,555	2,833	2,833
兵庫縣	3,615	2,814	1,288	1,555	2,833	2,833
長崎縣	3,615	2,814	1,288	1,555	2,833	2,833
新潟縣	3,615	2,814	1,288	1,555	2,833	2,833
群馬縣	3,615	2,814	1,288	1,555	2,833	2,833
千葉縣	3,615	2,814	1,288	1,555	2,833	2,833
茨城縣	3,615	2,814	1,288	1,555	2,833	2,833
栃木縣	3,615	2,814	1,288	1,555	2,833	2,833

府 縣 別	有業者	無業者(被扶養者ヲ含ム)	合 計		
男	女	男	女	男	女
奈良縣	10	10	20	20	40
愛知縣	10	10	20	20	40
静岡縣	10	10	20	20	40
山梨縣	10	10	20	20	40
滋賀縣	10	10	20	20	40
岐阜縣	10	10	20	20	40
長野縣	10	10	20	20	40
宮城縣	10	10	20	20	40
福島縣	10	10	20	20	40
岩手縣	10	10	20	20	40
青森縣	10	10	20	20	40
山形縣	10	10	20	20	40
秋田縣	10	10	20	20	40
福井縣	10	10	20	20	40
石川縣	10	10	20	20	40
富山縣	10	10	20	20	40
鳥取縣	10	10	20	20	40

特定區域(細民地區)ニ關スル調査

七三

見ルノデアロウ。

乳兒死亡曆年表ヲ掲ゲテ參考トスル。

現住人死亡ニ對スル乳兒死亡ノ割合

年次	特定區域			東京全市		
	現住人死亡數	乳兒死亡數	現住人死亡百ニ付乳兒死亡	現住人死亡數	乳兒死亡數	現住人死亡百ニ付乳兒死亡
大正八年	計 女 男 五、〇九〇 二、五七一 二、五一九	計 女 男 一、四一四 六五一 七六三	二七・七八 二五・三二 三〇・二九	計 女 男 五〇、六〇七 二四、七七六 二五、八三一	計 女 男 一〇、三八九 四、六三〇 五、七五九	二〇・五三 一八・六九 二二・二九
同 九 年	計 女 男 五、二四〇 二、六一一 二、六二九	計 女 男 一、三五三 六一二 七四一	二五・八二 二三・四四 二八・一九	計 女 男 五一、八六九 二五、三七六 二六、四九三	計 女 男 一〇、二六四 四、六六五 五、五九九	一九・七九 一八・三八 二一・一三
同 十 年	計 女 男 四、七四四 二、二五〇 二、四九四	計 女 男 一、四八三 六五三 八三〇	三一・二六 二九・〇二 三三・二八	計 女 男 四五、九〇五 二一、八一六 二四、〇八九	計 女 男 一〇、六五五 四、七一三 五、九四二	二三・二一 二一・六〇 二四・六七
同 十 一 年	計 女 男 一、九二七 一、七八六	計 女 男 五〇〇 五九〇	三〇・六二 二八・〇〇	計 女 男 二三、〇六八 二一、三七六	計 女 男 五、三六五 四、五二六	二三・二六 二一・一七

第一 乳兒 (滿一歲階級ノ現住人)

年次	計		
	計	女	男
同 十 二 年	計 女 男 一、〇三四 九九五 二、〇二九	計 女 男 二六三 二六四三 二七・五〇	計 女 男 二九・五三 三三、四八一 六七、三六二
同 十 三 年	計 女 男 三、四二〇 三、〇六四 六、四八四	計 女 男 九〇五 七六九 一、六七四	計 女 男 一七、二〇三 一五、四五二 三二、六五四
同 十 四 年	計 女 男 三、七一三 三、〇八四 六、四一二	計 女 男 九二八 八六二 一、七九〇	計 女 男 四四、四四四 一八、〇五〇 三三、二〇五

大正十四年國勢調査ニ依ル特定區域内ニ於ケル一歲階級ノ現住人ハ總數一萬五百十五人デアリ、男ハ五千三百九十三人女ハ五千二百二十二人ニシテ男ハ現住人總數ニ對シ五一・二九%ニ當リ、女ハ同割合四八・七一%ニ當ツテ居ル。

特定區域(瀨民地區)ニ關スル調査

特定區域ニ於ケル町別ニヨリ大正十四年十月一日現在ノ乳兒ヲ見ルニ、下谷區入谷町八百十九人乳兒總數ニ對シ七・七九%、同區龍泉寺町五百四十八人同割合五・二二%、深川區猿江裏町三百八十八人同割合三・六一%、淺草區千束町一丁目三百七人同割合二・九二%、同區橋場町三百六人同割合二・九一%、深川區古石場町二百八十六人同割合二・七二%等方多數デアアル。

更ニ特定區域ニ於ケル大正十四年十月一日現在ノ乳兒(滿一歲階級ノ現住人)ニ對スル死亡乳兒ノ割合ヲ見ルニ四谷區五ヶ町丁最モ高ク、生存乳兒百ニ付一八・二三%、本所區十五ヶ町丁同割合一七・八一%、小石川區七ヶ町丁一七・五三%、深川區十二ヶ町丁同割合一七・四六%、麻布區一ヶ町丁同割合一六・九八%、淺草區十四ヶ町丁同割合一六・九六%、牛込區二ヶ町丁同割合一六・八八%等ハ何レモ高ク、最モ低キハ芝區二ヶ町丁同割合九・五二%デアアル。

之ヲ體性別シテ比較スルニ麻布區一ヶ町丁二一・七四%、四谷區五ヶ町丁同割合一八・九七%、牛込區二ヶ町丁一八・五二%等ハ男兒ニ比シ女兒ノ死亡率ハ(乳兒ニ對スル乳兒死亡割合)遙ニ高ク、小石川區七ヶ町丁同割合一八・二二%、淺草區十四ヶ町丁同割合一八・〇〇%、芝區二ヶ町丁同割合一四・二九%等ハ女兒ニ比シ男兒ノ死亡率が高い。

今乳兒(滿一歲階級ノ現住人)ノモノニ對スル死亡乳兒ノ割合ヲ示セバ。

乳兒(滿一歲階級ノ現住人)ニ對スル死亡乳兒

大正十四年

特定區域別	乳兒		死亡乳兒		乳兒百ニ付死亡割合	
	男	女	男	女	男	女
京橋七ヶ町	一七五	一五九	二四	二六	一三・七	一六・五
芝二ヶ町	三三	三六	四	一	一二・三	三・七
麻布一ヶ町	三〇	三三	四	五	一三・三	一五・一
四谷五ヶ町	一九九	一七四	三三	三三	一七・五	一八・九
牛込二ヶ町	二九	二八	三	三	一〇・三	一〇・八
小石川七ヶ町	四三	四六	六	七	一三・三	一五・二
本郷一ヶ町	四〇	五〇	四	六	一〇・〇	一二・〇
下谷六ヶ町	一〇七	九七	一六	一四	一五・〇	一四・五
淺草一四ヶ町	一三九	一七三	二四	二〇	一七・三	一五・六
本所一五ヶ町	一〇八	一〇三	一七	一八	一五・七	一七・四
深川一二ヶ町	八二	八七	一五	一五	一七・〇	一七・三
合計七二ヶ町	五、三九三	五、三三三	一〇、五五五	一〇、六三三	一七・二	一七・〇

第二 季節別乳兒死亡

特定區域ニ於ケル乳兒死亡ノ季節別ヲ見ルニ冬季(十二月、一月)最モ多ク六百七人ニシテ一ヶ年間ノ乳

特定區域(細民地區)ニ關スル調査

兒死亡總數ニ對シ三三・九一%ニ當リ、次デ春季(三月、四月、五月)五百三人同割合二八・一〇%ニ當ツテ第二位デアアル、秋季(九月、十月、十一月)最モ少ク三百二十二二人同割合一七・九九%ニ當リ、之ヲ特定區域内現任人ニ對スル總死亡割合ノ季節的變動ニ比スレバ略々季節ヲ同ウシテ居ルガ稍々特異ナルハ乳兒ノ死亡割合ハ秋季(九月)最モ少ク現任人(特定區域)ノ死亡割合ハ夏季(六月)最モ低イコトデアアル。
更ニ體性別ニ依ル季節別ノ死亡ヲ見ルニ男モ女モ冬季ニ多ク秋季ニ少ナイ就中一月ニ最モ多ク九月ニ最モ少イ割合ヲ示シテ居ル。

季節ニ依リ分チタル特定區域ニ於ケル乳兒死亡ハ左ノ如クデアアル。

特定區域ニ於ケル季節別乳兒死亡

大正十四年

季節別	死亡數		同上割合(百分比)	
	男	女	男	女
春季	三月	九二	一〇二	一九四
	四月	七四	七七	一五一
	五月	八一	七七	一五八
	計	二四七	二五六	五〇三
夏季	六月	五七	五八	一一五
	七月	七六	五二	一二八
	八月	六六	四九	一一五
	計	一九九	一五九	三五八
秋季	九月	四九	三四	八三
	十月	五四	五三	一〇七
	十一月	六五	六七	一三二
	計	一六八	一五四	三二二
冬季	十二月	八四	七六	一六〇
	一月	一二五	一一九	二四四
	二月	一〇五	九八	二〇三
	計	三一四	二九三	六〇七
合計	九二八	八六二	一、七九〇	一〇〇〇〇

季節別	死亡數		同上割合(百分比)	
	男	女	男	女
春季	三月	九二	一〇二	一九四
	四月	七四	七七	一五一
	五月	八一	七七	一五八
	計	二四七	二五六	五〇三
夏季	六月	五七	五八	一一五
	七月	七六	五二	一二八
	八月	六六	四九	一一五
	計	一九九	一五九	三五八
秋季	九月	四九	三四	八三
	十月	五四	五三	一〇七
	十一月	六五	六七	一三二
	計	一六八	一五四	三二二
冬季	十二月	八四	七六	一六〇
	一月	一二五	一一九	二四四
	二月	一〇五	九八	二〇三
	計	三一四	二九三	六〇七
合計	九二八	八六二	一、七九〇	一〇〇〇〇

第三 乳兒ノ死亡原因

特定區域ニ於ケル大正十四年中ノ乳兒死亡千七百九十人ニ就テ其死亡原因ヲ見ルニ死因中第一位ニ

特定區域(細民地區)ニ關スル調査

アルハ「畸形、先天性弱質及乳兒ニ固有ノ疾患」四百六十五人ニシテ乳兒死亡總數ニ對シ二五・九八%ニ當リ、次デ「肺炎及氣管支肺炎」四百四十九人同割合二五・〇八%、「下痢及腸炎」三百二十五人同割合一八・一六%、「麻疹」九十六人同割合五・三六%等相次キ死亡原因中ノ主ナルモノデアアル。而シテ東京全市ニ於ケル乳兒ノ死亡數ハ七千六百三十五人ニシテ、其死亡原因ノ第一位ハ之亦「畸形、先天性弱質及乳兒ニ固有ノ疾患」ヲ乳兒ノ總死亡ニ對シ二六・八二%デアアル、次ギハ「肺炎及氣管支肺炎」ニシテ同割合二二・一三%、「下痢及腸炎」ノ同割合一九・〇四%等デ之ヲ特定區域ニニ較ブレバ多少ノ相異ハアルガ其主ナル死因ハ略々同シイ、只ダ特定區域ニ於ケル乳兒死亡原因中東京全市ノ夫ニニ比シ較差著シキハ「麻疹」九・一六%及「流行性感胃」四・四六%等デアアル。

第四 死亡乳兒ノ扶養者職業別

特定區域ニ於ケル死亡乳兒ノ扶養者ニ就テ其職業ヲ見ルニ無職業ノモノハ百七十人職業ヲ有スル者千六百二十人デアアル、即チ前者ハ總數ノ九・五〇%後者ハ九〇・五〇%ニ當ル。而シテ更ニ職業ヲ有スル扶養者ノ職業別ヲ見ルニ最モ多キハ物品販賣業(食品、燃料、荒物、雜貨、藥品、建築材料、古物商等)第一位ニアリ三百七十六人ヲニシテ數ヘ、有業者總數ニ對シテ二三・二二%ニ當リ、次ハ土木建築業(大工、左官、煉瓦職、石工、塗職、瓦職、屋根職)二百十五人ニシテ同割合一三・二七%ヲ示ス、金屬工業ノ百十人同割合六・七九%、木、竹類ニ關スル製造業(建具、盛職、指物、櫛類製造)百八人同割合六・六七%、被服、身ノ廻リ品製造業九

十七人同割合五・九九%、運輸業ノ五・九三%、旅宿、飲食店、浴場業ノ四・八八%等ノ順位デアアル。

左ニ乳兒扶養者ノ職業ヲ中分類シテ參考トスル。

乳兒扶養者職業別

大正十四年

職 業	職 業	實 數	割 合 (百 分 比)
農 業	農耕、畜産、蠶業	二三	一・二八%
水 産 業	漁業、製鹽業	二	〇・一一
鐵 業	探礦、冶金業 土石採取業	二	〇・〇六
織 造 業	紙 工 業	一四	〇・七八
織 造 業	織 維 工 業	三四	一・九〇
織 造 業	化 學 工 業	一四	〇・七八
織 造 業	機 械 器 具 製 造 業	五九	三・三〇
織 造 業	金 屬 工 業	一一〇	六・一五
織 造 業	窯 業	一九	一・〇六

特定區域(細民地區)ニ關スル調査

ル、次ハ一ヶ月以上二ヶ月迄生存スル者二百三人同割合一・三四%ニ當リ、二ヶ月以上三ヶ月迄百七十一人同割合九・五五%、五日以上十日迄ノ者百十八人同割合六・五九%、三ヶ月以上四ヶ月迄及四ヶ月以上五ヶ月迄ノ者各々百十人ニシテ同割合六・一五%ニ當リ順次ニ相次テ居ル、又體性別ニ分チテ生存期間ヲ見ルニ十日以上十五日迄ノモノ及十五日以上二十日迄ノモノ、一ヶ月以上二ヶ月迄ノモノ二ヶ月以上三ヶ月迄ノモノ、三ヶ月以上四ヶ月迄ノモノ、四ヶ月以上五ヶ月迄ノモノ、七ヶ月以上八ヶ月迄ノモノ、八ヶ月以上九ヶ月迄ノモノ及十一ヶ月以上一ヶ年迄ノモノノ者ハ女ノ割合高ク、之ニ反シ男ノ生存期間階級別割合ハ一日以上五日迄ノモノ、五日以上十日迄ノモノ、二十日以上一ヶ月迄ノモノ、五ヶ月以上六ヶ月迄ノモノ六ヶ月以上七ヶ月迄ノモノ、九ヶ月以上十ヶ月迄ノモノ、十ヶ月以上十一ヶ月迄ノモノ等女ニ比シ男ノ割合が高イ。

之ヲ大正十四年ニ於ケル東京全市ノ乳兒死亡七千六百三十五人ノ生存期間別ノ割合ニ對比スレハ生存期間ノ一日以上五日迄ノモノ、十五日以上二十日迄ノモノ、一ヶ月以上二ヶ月迄ノモノ、三ヶ月以上四ヶ月迄ノモノ、七ヶ月以上八ヶ月迄ノモノ、十ヶ月以上十一ヶ月迄ノモノ及十一ヶ月以上一ヶ年迄ノモノ等ハ低ク而シテ五日以上十日迄ノモノ、十日以上十五日迄ノモノ、二十日以上一ヶ月迄ノモノ二ヶ月以上三ヶ月迄ノモノ、四ヶ月以上五ヶ月迄ノモノ、五ヶ月以上六ヶ月迄ノモノ、六ヶ月以上七ヶ月迄ノモノ、八ヶ月以上九ヶ月迄ノモノ、九ヶ月以上十ヶ月迄ノモノ等ハ特定區域が高イ。

昭和二年三月二十八日印刷
昭和二年三月三十一日發行

東京市役所

東京市芝區愛宕町三丁目二番地

印刷者 牛丸勝三郎

東京市芝區愛宕町三丁目二番地

印刷所 東洋印刷株式會社

